

【既存の取組事例】具体的な減量施策の検討について（意見取りまとめ）

区分	内容	利点	課題	
紙ごみ	子供会、自治会、婦人会等による古紙回収	・定期的に古紙がリサイクルされる機会となる ・自治会等に市町からの報奨金が入る	・自治会等に未加入の人は参加できない ・雑がみ回収可能か住民に周知が届いていない ・そもそも雑がみとは何か住民が分かっていない	<ul style="list-style-type: none"> ・提言に盛り込むべき施策かどうか ・継続して取り組むべき取組かどうか ・継続して取り組む場合、改善が必要な点はないかどうか <ul style="list-style-type: none"> ・<u>同意見6人</u>自治会、女性の会等未加入の方も自治会回収の対象に ・<u>同意見2人</u>雑がみとは何か、動画や写真で具体的な例で仕分け方法を視覚的に説明する方法が必要 ・自治会等への未加入者については、紙回収ステーション等で補完 ・取り組むべきだが地域（自治会）での担い手不足も心配 ・環境保全としての意識づけが大切 ・エコステーションの拡大が必要 ・回収可能な対象範囲を絵図等で明示（掲示、回覧等） <p>※京都市ごみ半減目標のための「しまつのこころ条例」では、雑がみの例や回収対象外を絵図で示している。枚方市では古紙、段ボール、雑がみは市が回収しており、シュレッダーごみも写真、絵図で説明</p> <p><u>提言に盛り込むべき</u>：5人</p>
	市のごみの出し方によると、可燃ごみで紙くずを出してよいとなっている。	・紙くずは生活上よく出てくるので、可燃ごみに入れるのであれば住民は排出しやすい。	・名刺大以上の雑がみは古紙回収でリサイクル可能と周知が行き届いていない。 ・可燃ごみとして出せるのは、汚れた紙ごみとしてはどうか	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>同意見2人</u>雑がみがリサイクル可能であるとの周知徹底（広報等で周知） ・雑がみとは何か、動画や写真で具体的な例で仕分け方法を視覚的に説明する方法が必要 ・「可燃ごみ」→「燃やすごみ」、雑がみは「資源ごみ」に周知徹底 ・ごみ扱いにするのか、リサイクルにするのか区別の周知が必要 ・可燃ごみとして出せる例を示す（キッチンペーパー、ティッシュ等） ・すぐに古紙回収することはなじまないの、周知徹底を優先すべき ・改善が必要。可燃ごみに紙くず不可、資源物とする
	資源分別の啓発	・市町イベント、ホームページ、広報紙等による周知啓発を実施	・一方通行の周知のため住民が理解しているか確認できない→第1回会議で住民が知らないことが多いという意見があった	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>同意見2人</u>啓発の仕方の工夫、啓発はもっと必要 ・改めて知らないことがあった。広報紙はみなさん読んでいる ・分別ルールの簡素化と徹底 ・資源分別については、公共施設、学校、幼稚園等でも意識を広める取り組みをしてはどうか ・行政が各自治会に説明、講演会を開催し周知する等 ・市民体験型または親子で取り組めるイベント実施を検討してはどうか ・新たに有効な手法を取り入れて実施 <p><u>提言に盛り込むべき</u>：2人</p>
生ごみ	コンポスト・生ごみ処理機等の導入補助制度	・可燃ごみに含まれる生ごみの減量が見込める	・全市町で補助制度が導入されていない ・補助制度がある市町でも一定購入費の住民負担が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>同意見2人</u>製品等の紹介、補助制度の拡充、周知 ・段ボールコンポストの普及 ・近隣への配慮が必要で、なかなか勇気が出ない ・コンポスト利用者に対する経済的メリット。例えばたい肥量に応じたポイント付与 ・処理に手間取るからなかなか広がらないが、継続して周知をしていく必要 ・財政的問題もあり、全市町での導入は課題がある。まずは効果の共有を図るべき。 ・3市3町共通の制度で実施すべき ・各家庭でコンポストや生ごみ処理機の設置スペースが確保できないことも考慮する必要
	食べきりをテーマにしたイベント実施	・市町イベントとして広く周知可能	・全市町で実施できていない ・興味がある住民にしかイベントに参加してもらえない	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち葉コンポスト等で焼き芋等の楽しいイベント ・食材すべて使い切りと言われるが、なかなか日常生活では難しい ・高齢者世帯への周知→老人会での出前講座 ・全市町での取り組みが可能ではないか。 <p><u>提言に盛り込むべき</u>：2人</p>
	食品ロス削減取組の実施（フードドライブ、フードバンク舎）	・市町イベントとして広く周知可能	・全市町で実施できていない ・興味がある住民にしかイベントに参加してもらえない	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリでスーパーやコンビニ弁当等の割引販売の宣伝支援 ・主婦が多い女性の会等の事業の中で開催したい ・対象となる分野が分かりにくい。飲食業？食品小売業？家庭？ ・防災学習会等、様々なイベントで実施、啓発 ・フードドライブ、フードバンクなど、人目につきやすい場所で回収実施する ・将来につながることなので継続して周知をしていくべき <p><u>提言に盛り込むべき</u>：2人</p>

	エコクッキング、食べきりレシピ等の紹介	・食品ロス削減について周知できる	・全住民に情報が行き届いていない	・食べきりレシピ等を市町に常設していつでも手に入るようにする ・大阪ガスとのコラボ ・主婦が多い女性の会等の事業の中で開催したい ・将来につながることで継続して周知をしていくべき 提言に盛り込むべき：2人
プラごみ	プラスチック製容器包装の分別回収	・リサイクル率の向上が見込める	・処理困難物の混入等が課題	・分別の徹底 ・混入するものの問題点の広報 ・処理困難物とは？→周知不足 ・インセンティブの付与。容器を分別するごとのポイント付与 ・「プラマーク」の有無の違いが不明 ・食品トレーの分別回収についてもペットボトルと同じにしてほしい ・リサイクル率が上がっていると思うが、もっと徹底的に処理できるように周知は続けていけばいい 提言に盛り込むべき：2人
その他減量施策	環境ふれあいひろばにおける不用品リユース	・捨ててしまうとごみになるが、必要な人にリユース（使用）してもらえる。	・引き取れる不用品の種類に制限がある ・品数、来客数が大手リサイクルショップと比べると少ない	・ポイント（地域通貨）によって購入できるようにし、現金でなくてもよい方法の検討 ・開催回数を増やす？→詳細が知られておらず周知不足 ・民間との住み分けも必要 ・環境ふれあいひろばを知ってもらう手立てがいる ・不用品、服など回収する場所があれば集めやすい。フリーマーケットなど ・周知が必要。よい取組であることから、住民理解を得やすい。 提言に盛り込むべき：2人
周知啓発	市町イベント、SNS、ホームページ、広報紙等による周知啓発の実施	・幅広く情報を届けることができる	・全住民に情報が行き届いていない ・SNSをうまく活用できていない ・一方通行の周知のため住民が理解しているか確認できない→第1回推進会議で住民が知らないことが多いという意見があった	・同意見2人 SNS 媒体の活用、SNS は必要 ・住民の広報紙への企画参加（市民目線） ・各市町広報に「環境ごみ分別」コーナーを毎月入れ、環境、ごみ問題の啓発を徹底する ・紙を減らすために紙（広報紙）を使うのに抵抗がある。 ・地域ごとに説明会等を実施する 提言に盛り込むべき：3人
	分別回収の実施	・ごみの適正な分別が図れる	・市町で分別方法が異なるため、分かりにくい ・3市3町でごみ分別区分及びごみ辞典等の統一が困難 ・分別方法について、住民に細かく知れ渡っていない	・同意見2人統一化を図るべき ・意識がある方と、ない方の差が大きい ・住民には分別一覧表がカラーで配布されている 提言に盛り込むべき：3人
	地域情報サイト「ジモティー」との連携	・不要なもののリユースが進み減量が見込める	・「ジモティー」1社としか連携できていない	・減量が見込めるのであれば、1社だけでもよい ・他市でも好事例があることから継続すべき 提言に盛り込むべき：2人
	行政が運営するリユースコーナーや資源物回収イベント等の開催	・不要なもののリユースが進み減量が見込める	・組合が実施する環境ふれあいひろばは、周知が広がっておらず、来庁者が増えていない。	・企業の参加による試供品（販促品）を配布すれば市民は来る ・目立つ広報の作成 ・ターゲット層に合わせた企画の開催。例えば、家庭、若者、高齢者向け等 ・地理的に交通の便から送迎バスの運行 ・小中学校の環境学習のコースに入れる ・身近なところでイベント開催になれば、周知が広がる ・広報紙で周知する。 ・市民との協働で推進 提言に盛り込むべき：3人
	環境美化について教育の機会を増やすため、出前講座の開催が必要	・住民に対し、直接啓発することができる	・管内人口に対し、開催頻度が低い。（組合実施分：令和5年度実績18回）	・出前講座の発信不足。広報、HP、申込用紙等を各市町の各施設に配架 ・出前講座の開催をする必要は大いにある ・組合と市町が連携して行うのが良いのではないか ・3市3町の担当部署がそれぞれの自治体で行っていくことの方が重要
	【委員追加】バザー開催について			・わが地域では、コロナ前には年1回学区単位でバザーを開催、多くの方が来てくださり、各家庭の不用品を展示、安値で販売できていたが、コロナ後は開催できていない。 その後5月（毎年）にふれあいまつりとして飲食とともに、（育友会協力のもと）小さくなった子供服を集めていただき、持ち帰っていただくコーナーを作りましたが、あまり品が多く後の処理が大変でした。

経済的手法	エコポイント制度の導入	・環境啓発に関連付けて取組を進めることができる。	・全市町で導入ができていない。	・同意見 2 人 全市町でエコポイントの導入が必要 ・提言に盛り込み、意識向上を図る。エコポイントについては協力が得られると思う ・導入は不要
-------	-------------	--------------------------	-----------------	---

【他自治体で実施されている先進取組事例（※組合管内では未実施）】具体的な減量施策の検討について（意見取りまとめ）

	内容	利点	課題	
紙ごみ	雑がみリサイクルの実施。 具体的には次のようなパターンが想定される ①行政による雑がみ回収 ②古紙回収で雑がみを一括して回収 ③民間企業設置の資源回収拠点で古紙と一括して回収	・可燃ごみとして焼却されている雑がみのリサイクルが進む ・周知が行き届けば可燃ごみに混入している紙ごみの減量が見込める	・そもそも雑がみとは何か住民が分かっていない ・市町による雑がみについての周知が必要 ・①行政による雑がみ回収の実施には新たな分別品目の見直し及び回収コストが必要	・提言に盛り込むべき施策かどうか ・他自治体の実施する取組事例を参考に取組む場合、改善が必要な点はないかどうか ・京都市が条例改正をした時、雑がみ等紙の削減に力を入れた。雑がみの周知とともに（ルール違反の場合）収集しないことも検討が必要 ・地域の皆さまは古紙回収時一緒に出されていると思います。 ・公民館、集会所に雑がみ、古本、回収BOX設置。回収場所に雑がみについて掲示し周知 ・雑がみについて周知し、②③の回収方法も加えて実施すべき 提言に盛り込むべき：2人
	民間事業者による資源回収場所（資源物回収マップ）の市町ホームページ掲載 ※雑がみ回収の可否についても記載	・住民の古紙及び雑がみ排出機会が日時を問わず可能になる ・周知が行き届けば可燃ごみに混入している紙ごみ及び雑がみの減量が見込める	・民間事業者リストアップに業者の賛同を得られるか。	・同意見2人回収マップの作成。ワークショップ、広報掲載 ・紙回収ステーションの設置とマップアプリ ・民間事業者への益々の声掛けは必要 ・最近、民間回収拠点が増えているので、リサイクル率の向上や便利さの提供につながるので、協力体制の構築は必要と思う ・自治会、子供会等で回収している場合が多いと思うので、周知も実施してもらえるよう呼びかける ・民間事業者への協力は得られるようにすればよいが、提言には入れなくてもよいのでは
	シュレッダーごみのリサイクル	・事業者が排出する機密文書の減量、可燃ごみとして出されているシュレッダーごみの減量が見込める	・シュレッダーごみを受け入れ可能なリサイクル業者について情報がない ・雑がみリサイクルとあわせて周知する必要がある	・リサイクル業者のリストアップと広報 ・各回のお知らせ（古紙回収にあたって）にも入れてみてはどうか ・シュレッダーごみリサイクル取り組むべき ・シュレッダーごみは体積が増え保管が大変なので、工夫が必要 ・シュレッダーごみに関する情報周知 ・事業者に協力依頼をするとともに、ごみに対する意識を高めてもらう ・受け入れ可能業者があるなら実施すべき ・個人情報の関係でシュレッダーごみはよく出るため、回収可能な業者を確保すべき
生ごみ	食材、食品の「適量購入」、食材の「使いきり」、料理の「食べきり」、調理時の「適切除去」	・食品残渣の発生抑制に取り組むことができる	・飲食店、スーパー等の民間事業者の協力が必要	・分別排出についてインセンティブを与える 【可燃ごみに水分多い→燃えない（プラ、紙分別でさらに燃えない）→灯油増（補助燃焼）→水切り重要】 ・そう思う ・オランダ、イギリスのように包装無し食品やマイ容器持参 提言に盛り込むべき：3人
	生ごみを分解してもたい肥が発生しない「キエーロ」等の普及拡大	・コンポストと違い、たい肥が発生しない ・可燃ごみに含まれる生ごみの減量が見込める	・「キエーロ」の認知度が低く、周知が必要	・マンション住民には利便性ある ・手作り可能、ワークショップ、手作り教室の開催 ・周知優先すべき ・実証実験を行ったうえで、虫や効果など課題がなければ実施してもよい
	水切り器の配布	・生ごみの水切りにより可燃ごみの減量が見込める。	・水切りが手間となるため、住民の協力を得るのが大変	・広報（有料化等で水を切らないと損をすることの広報） ・協力受けるのは大変 ・生ごみの水切り重要 ・意識啓発と情報提供のアプローチ（資源ごみと同じように水切りを習慣づける） ・周知啓発、出前講座、ワークショップの実施 ・水切り効果がよくわからない ・啓発のために配布すれば一時的な効果は見込めるが、継続性に課題
	多岐にわたる食品ロス削減への取り組みを推進するための、教育や福祉分野等関連部局との連携	・環境（廃棄物）の視点以外からのアプローチが可能	・幅広い利害関係者との連携が必要	・学校の調理実習等で子供達にも周知する ・コミュニティ冷蔵庫やコミュニティパントリーの実験→社会的弱者支援 提言に盛り込むべき：2人
	【委員追加】生ごみのたい肥化、メタン発酵発電等、生ごみ分別回収			・コスト面など幅広い検討が必要

プラごみ	プラスチック一括回収実施 ※城南衛生管理組合でも令和8年度導入に向け協議中	・不燃ごみで処理しているプラスチックの資源化が可能	・分別区分の変更に伴い住民への周知が必要	・住民への周知徹底 ・製品プラの種類は多いため、分別の啓発が必要 ・各地区出前講座の開催徹底 提言に盛り込むべき：2人
	ワンユースで利用されるプラスチックの削減	・幅広い利害関係者との連携が必要	・幅広い利害関係者との連携が必要 ・生産者責任	・スーパーやコンビニへの徹底（竹等代替素材） ・理想的だが、実施するにはハードルが高い ・啓発のみ
	【委員追加】 分別の方法について			・わかりやすい分別方法の啓発
その他減量施策	（例）祇園祭ごみゼロ大作戦	・リユース食器の使用、資源分別活動の実施により、祭り等のイベント開催時、来場者数に比例して課題となる廃棄物を減量する。 ・ごみ減量について住民周知する機会となる	・活動が浸透するまで時間が必要となる。 ・事業運営を多数のボランティアに頼らざるを得ない現状がある。	・レストランでの「ドギーバック」の利用（国のガイドラインあり） ・自己責任での持ち帰り ・Refillによる販売促進 ・マイカップ運動 ・イベントには向いている ・参加者、住民の意識向上に努める。都度声掛けする。 ・実施していくべき
	大型家具のリユース事業 ①地域情報サイト「ジモティー」等各種フリマサイトとの連携 ②リユースショップの活用 ③住民持ち込み大型ごみからピックアップ	・捨ててしまうとごみになるが、必要な人にリユース（使用）してもらえる。		・リペアカフェを設置して、そこでの事業として検討 ・効果的であり、拡大が望まれるが、行政が主体的に行うことは難しい ・取り組んだ方が良いと思うが、提言に盛り込むべきかは他委員の意見も聞くべき ・実施していくべき ・大型ごみは行政回収（有料）を実施する
	【委員追加】マイバック、マイボトル持参			マイバック、マイボトル推進
	【委員追加】啓発のための広報、発信事項			・税金の無駄＝住民の生活向上 ・地球温暖化防止 ・毎月のごみ処理費用総額と住民1人当たりの金額表示 ・京都府内他自治体との比較、京都市との比較、平均値、ランク等、各市町広報及びエコネット城南に掲載
周知啓発	市町で分別方法が異なる。		・周知がややこしい ・組合が一括して周知に取り組む場合、分別方法の統一が必要	・同意見3人統一が望ましい ・市町で統一に向け話し合いをすべき ・市町毎に異なるというのが問題なのかというところだが、せめて城南衛管では統一が必要では ・分別にかかる周知はもっと必要 提言に盛り込むべき：2人
	「子供用品のリユース」 ・教育機関を活用した子供用品全般のリユース事業 ・子供用品が必要な時に新品を購入するというのも一つの方法だが、おさがりを活用することがごみ減量の一つとして検討できる。 ・おさがりに抵抗がある人も多いが、子供に対してリユースについて教育すれば、親の意識も変わっていく可能性がある。 ・教育機関が主体となって交換できる場を提供できれば、フリマ等にわざわざ出かけることなくリユース品を探すことが可能。	・不要なもののリユースが進み減量が見込める	・制服リユースの場合、学校単位での実施 ・大規模なイベントになると、開催に多額の費用が必要 ・開催に適切な場所がない	・まだ実施されていない学校もあるが、制服リユースは大いに賛成。卒業後に回収できると入学までに間に合う上、制服は高額なため利用できる人の一助となる。 ・あわせておもちゃや幼児服のリユース促進 ・まずは、大学、学校、企業などで主体的に取り組めばどうか ・制服リユースは無駄にならず、とてもいい活動になる、経済的にもよい。 ・制服リユースのニーズは高い。地域に根差した取り組みが必要 ・民間（住民）主体の取組みとして行うもの

<p>「リセールの行政支援」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フリマ出店経験からリセールに着目。 ・フリマ出店した際出店料が必要となるが利益が少なくなるため、学生が求めているのは、行政が場所提供、出店料補助、什器貸出をやってもらえればさらにフリマ等でのリセールが増える。 ・行政が実施するイベントではPR方法も課題となるが、TikTok、インスタ等の活用方法は若い人や学生が詳しいので、得意な分野で協力可能。 ・ごみと思わず、新たな価値観を見出してもらうことを重要視している。 ・古着というと、誰かが着古したものと嫌われることもあるが、新たなタグをつける、古本であればブックカバーを学生がデザインする、学生が出店している等といった付加価値をつけて販売する。 ・行政が実施しているHP、掲示板、ポスターの作成等、学生とコラボして実施するということができるのであれば面白いものが作成可能。 ・行政にすべて任せるのではなく、学生の知識、行動力、つながりを活用してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不要なもののリユースが進み減量が見込める 	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模なイベントになると、開催に多額の費用が必要 ・開催に適切な場所がない ・行政による開催支援が必要（学生） 	<ul style="list-style-type: none"> ・場所の確保と定期化（月1回）イベント化 ・京都にある大学に呼びかければどうか（特に環境系学部のある大学教員や事務局に） ・産業まつり、商工会まつり、文化祭等のイベントに参加可能となれば場所は無料で提供することも可能。 ・学校の体育館等借りて開催 ・提言に盛り込むことには消極的 ・民間（住民）主体の取組みとして行うもの
<p>「リサイクルの大々的な宣伝」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品ロス、おもちや、古着等の再利用が必要。 ・古紙のリサイクルのため、ショッピングモールに回収ボックスを設置する。 ・古紙回収の促進のため、宣伝（周知）が必要。より広く周知するため、例えば宇治市であれば京都大作戦、市出身の著名人とタイアップし、リサイクルの大切さを発信する。 ・立命館宇治高校では中学高校で制服が変わるため、そのタイミングで制服のリセールを購買等で実施する。売る側には収入があり、買う側には安く買えるというメリットがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不要なもののリユースが進み減量が見込める 	<ul style="list-style-type: none"> ・制服リユースの場合、学校単位での実施 ・大規模なイベントになると、開催に多額の費用が必要 ・開催に適切な場所がない →環境ふれあい広場の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・文教大学の卒業時の引越して荷物（不用品）の活用を大学に求める ・制服は学校単位が良いのでは。入学前のサイズ測定の時のタイミングがとても良いと思う ・民間（住民）主体の取組みとして行うもの
<p>「ショッピングモールの活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民はごみの分別カレンダーにより分別を行うが、分別についてあまり意識ができていない世帯がある。 ・ごみを分別しない人の心理状況としては、自分にとってのメリットがない、めんどくさいということが要因。 ・分別を意識してもらえよう子供から高齢者までどうやってアプローチするか考えた場合、子供⇔大人⇔高齢 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ問題だけではなく、多世代交流が図れる。 ・行政と学生がコラボすることにより、それぞれの得意分野を生かすことが出来る。 →学生：SNS、企画運営 行政：開催場所提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模なイベントになると、開催に多額の費用が必要 ・開催に適切な場所がない →環境ふれあい広場の活用 ・行政による開催支援が必要（学生） 	<ul style="list-style-type: none"> ・DIYで作ったアップサイクル品の販売も検討 ・ポイント（地域通貨）の活用 ・保育、幼稚園で「ごみ分別」ゲームを実施しており、年1回だが園児は記憶している。幼稚園から中学まで環境教育にごみ分別を必須として取り入れる。食育も同様に、給食の残材、食べ残しの活用を農業や再エネに利用促進を図る。 ・ごみの分別に関しては、子供の時から習慣づけることが重要。学校の調理実習（家庭科授業）において、食品ロスやごみ分別をしっかりと教育。大人に対しても、料理教室等で徹底して意識づけ。「もったいない」精神が普通になるといい。 ・最近マルシェが多く開催されているが、イベント開催にごみはつきものなので、主催者にごみ減量を意識してもらうことが良いのではないかと。

<p>者を一体とした多世代交流のサイクルを生成することが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多世代交流のサイクルをまわすため、多世代が参加できるイベントの企画を行う。イベント参加には、参加者のメリット創出、参加のためのハードルを下げる必要がある。 ・まず参加のためのハードルを下げるため、ショッピングモールでイベント開催する。ショッピングモールで開催するメリットは、親子世代が買い物ついでに参加できるということが、参加のハードルが下がる大きなメリット。さらに、ごみ問題だけのイベントを行政単独で開催するより、様々な世代に多く参加してもらいやすいショッピングモールでの開催が重要。 ・次に、参加者のメリットを高めることについて。人は自分にメリットがないとなかなか行動してくれない。だから、イベントに参加することによるメリットとして、農家とタイアップし野菜をもらえる参加賞を用意する。親子世代にとっても野菜をもらえるのは大きなメリット。 ・子供にとっての学びやメリットとしても、ごみ問題を自由研究のテーマにできる等のプロモーションも可能。 ・農家とタイアップするメリットとして、生ごみの減らし方、食べきりレシピー等、先人の知恵を継承する高齢者から子供世代への多世代交流の機会を創出する。 ・ごみ問題だけに着目するのではなく、温かい社会の構築、多世代交流の推進といった視点で、地域全体で一緒にごみ問題に取り組んでいける雰囲気づくりを行う。 			<ul style="list-style-type: none"> ・行政による開催支援は必要 					
<p>【委員追加】アップサイクルの関連イベントの開催</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・アップサイクルで生まれたものの展示、販売、体験イベントの開催 					
<p>【委員追加】先進市町村の取組みについてのセミナー</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・セミナー、講演会を開催し、管内での実施可能性を検討する 					
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="195 1493 724 1692"> <p>経済的インセンティブを活用</p> </td> <td data-bbox="724 1493 1086 1692"> <ul style="list-style-type: none"> ・他自治体の先進事例を見ても、ごみ減量が見込める </td> <td data-bbox="1086 1493 1555 1692"> <ul style="list-style-type: none"> ・導入にあたり生活保護世帯、子育て世帯等に対する減免措置等の検討が必要 </td> <td data-bbox="1555 1493 2769 1692"> <ul style="list-style-type: none"> ・地域通貨のために幅広く活用（便利さを増すこと） ・ごみ袋の有料化 ・ごみ有料化により財源に充てる ・ごみ袋の有料化とあわせて導入を検討すべき ・有料化は市民生活（家計）に影響が大きく、まずは紙・プラで減量策を促進すべき ・有料化について、提言に明記されることは、現時点では反対 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="195 1692 724 1890"> <p>共通エコポイント制度の導入</p> </td> <td data-bbox="724 1692 1086 1890"> <ul style="list-style-type: none"> ・3市3町共通ポイント制度であれば交換の利便性が増す。 </td> <td data-bbox="1086 1692 1555 1890"> <ul style="list-style-type: none"> ・3市3町でエコポイント制度統一の検討が必要 ・全市町で導入が出来るのか、場合によっては個別にポイント制度導入の場合も。 </td> <td data-bbox="1555 1692 2769 1890"> <ul style="list-style-type: none"> ・エコポイントの交換の原資創出 ・共通エコポイントは必要 ・全市町でエコポイント導入できていない状況で、共通化は早々ではないか。 ・不要。最初はめずらしく参加する人、事業者があると思うが、継続性に乏しい ・一部のコンビニでペットボトル1本回収に1ポイントもらえるところがある。わかりやすいポイント制にする必要がある。 </td> </tr> </table>	<p>経済的インセンティブを活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他自治体の先進事例を見ても、ごみ減量が見込める 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入にあたり生活保護世帯、子育て世帯等に対する減免措置等の検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域通貨のために幅広く活用（便利さを増すこと） ・ごみ袋の有料化 ・ごみ有料化により財源に充てる ・ごみ袋の有料化とあわせて導入を検討すべき ・有料化は市民生活（家計）に影響が大きく、まずは紙・プラで減量策を促進すべき ・有料化について、提言に明記されることは、現時点では反対 	<p>共通エコポイント制度の導入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3市3町共通ポイント制度であれば交換の利便性が増す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3市3町でエコポイント制度統一の検討が必要 ・全市町で導入が出来るのか、場合によっては個別にポイント制度導入の場合も。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エコポイントの交換の原資創出 ・共通エコポイントは必要 ・全市町でエコポイント導入できていない状況で、共通化は早々ではないか。 ・不要。最初はめずらしく参加する人、事業者があると思うが、継続性に乏しい ・一部のコンビニでペットボトル1本回収に1ポイントもらえるところがある。わかりやすいポイント制にする必要がある。
<p>経済的インセンティブを活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他自治体の先進事例を見ても、ごみ減量が見込める 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入にあたり生活保護世帯、子育て世帯等に対する減免措置等の検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域通貨のために幅広く活用（便利さを増すこと） ・ごみ袋の有料化 ・ごみ有料化により財源に充てる ・ごみ袋の有料化とあわせて導入を検討すべき ・有料化は市民生活（家計）に影響が大きく、まずは紙・プラで減量策を促進すべき ・有料化について、提言に明記されることは、現時点では反対 					
<p>共通エコポイント制度の導入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3市3町共通ポイント制度であれば交換の利便性が増す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3市3町でエコポイント制度統一の検討が必要 ・全市町で導入が出来るのか、場合によっては個別にポイント制度導入の場合も。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エコポイントの交換の原資創出 ・共通エコポイントは必要 ・全市町でエコポイント導入できていない状況で、共通化は早々ではないか。 ・不要。最初はめずらしく参加する人、事業者があると思うが、継続性に乏しい ・一部のコンビニでペットボトル1本回収に1ポイントもらえるところがある。わかりやすいポイント制にする必要がある。 					